

新たな可能性を追及して より魅力的な町に

あけましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、ご健勝にて輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、旧年中は町行政の各般にわたり、深いご理解と温かいご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、愛南町が誕生いたしました。今年で20年という節目の年を迎えます。本町には、豊かで美しい自然環境があり、これまで、このすばらしい地域の資源を活かして、町の魅力化・認知度の向上や活性化につながるさまざまな取り組みを進めてまいりました。そうした中、昨年を振り返りますと、愛南町の主要な産業であります水産分野において、地域資源の価値や魅力を生かした取り組みにより、地域の賑わい、所得の向上と雇用を生み出す新たな施策を実施する海業振興先行モデル地区に全国で12地域が選定され、中国・四国地域内では唯一、愛南町が選定されました。このことから、水産課内に海業推進室を立ち上げ、水産庁から出向いただいた浜辺室長を中心に、

水産・観光・飲食・特産品販売など、海に関する地域資源を結び付けた海業の創出を目指し取り組んでいるところです。また、B & G財団の海興しにつながる先進的海洋センター整備事業の採択を目指し、企画提案を行っております。最終の結果はまだ出ていませんが、選考の結果に関わらず、町の資源を最大限活用して、海業を核としたさらなる地域づくりの展開を創出してまいります。

農業分野では、町の特産である河内晩柑^{ばんかん}につきましては、ヨーロッパへの輸出拡大に向けて、現地のバイヤーを町内の園地にお招きし生産者との意見交換を行ったほか、中村知事がフランスを訪問されトップセールスをされるにあたり、自分も随行して宣伝活動を行うなど、県の販売強化の取り組みに期待をしているところです。

今年度の本町へのふるさと納税は、これまでにないペースでご寄付をいただいております。当初の目標としていた15億円を超える寄付額が見込まれています。全国の多くの方から、本町を応援していただいていることは、ひとえに生産者、事業者の皆さまのご理解とご協力があつての賜物です。ふるさと

納税は、町の魅力を広く知っていただくための貴重な制度であり、地域の発展にも寄与するものですので、今後も地域産業の振興につながる取り組みを充実してまいります。また、本町出身者の交流を深めるため、TOKYOあいなん交流会が設立されました。このつながりを大切にし、関係人口・交流人口の拡充を図ってまいります。

地域産業の活性化とともに、町民の皆さまの生活を向上させるための取り組みも重要です。本町では、子育て支援の施策として、子育て世代の経済的負担軽減を図るため、時限的な取り組みではありますが給食費を無償化したほか、次年度に町内の小学校に入学予定の児童の希望者に、通学カバンの無償配布を始めたところです。また、交通弱者といわれる方々への支援として、高齢者のタクシー助成の在り方を大きく見直し、利用申請者数はこれまでの2倍以上となる1,200人余りの高齢者にタクシー助成券を利用していただいております。今後も豊かな自然を大切に、住みやすい町・住み続けたいと思えるまちづくりに取り組んでまいります。

四国横断自動車道「宿毛内海道

路」は、「内海・御荘」、「一本松・宿毛新港」の2区間が事業化の決定を受け測量が始まるなどしています。今後も未事業化区間である「御荘・一本松」区間の新規事業化と、事業化が決定されている区間の早期完成に向けた要望活動に取り組んでまいります。

今年度は辰年です。龍は活力や成長、そして希望を象徴する年とされています。地域資源の活用や皆さまのご協力を得て、新たな可能性を追及し、愛南町をより魅力的な町にしていくことを目指し町政に取り組んでまいります。町民の皆さまには引き続き温かいご指導、一層のご協力をお願いいたします。

本年が町民の皆さまにとりましても、幸多き飛躍の年となりますことを心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさついたします。



愛南町長 清水 雅文

住民と共に考え

歩む議会に

あけましておめでとうございます。

町民の皆さまには健やかで希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。年頭にあたり、議会を代表して謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

私は、昨年5月の臨時議会において、議員各位のご推挙をいただき、議長という大役を仰せつかりました。その職責の重さを認識しつつ、公平公正な議会運営を目指して、微力ではございますが、誠心誠意努めてまいりました。新年を迎えるにあたり、あらためて、町民の皆さまと議員各位のご指導とご協力に対して、感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、愛南町においても4年ぶりにトライアスロン大会が開催されるなど、社会経済活動は正常化に向かいましたが、ウクライナ情勢等による世界的な物流の混乱や加速する円安などにより、燃油や原材料、食料価格が高騰するなど、町民生活は大きな

影響を受けることになりました。愛南

町では、国の支援を受けて電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援交付金を支給するとともに、町単独事業として地域経済活性化2023サマープレミアム商品券を配布して家計の支援を行いました。が、歴史的な物価高騰の影響は未だに影を落としています。しかし、このような中、水産庁が公募した「海業推進先行モデル地区」に、サステイナブルな海業・水産業の推進を表明した愛南町の提案が四国地方で唯一選ばれ、海や漁村の魅力と地域資源を活用して水産物の消費拡大と所得向上を図るため、水産課に新たに「海業推進室」を設け、事業の推進を図ることになりました。また、農業分野においても、町産河内晩柑を欧州用ブランド名称「misho」として、フランスやスイスに向けて輸出量を拡大させようと取り組んでおり、4月から5月にかけて出荷した生果が、スイスなどで高い評価を得るなど、愛南町の主要産業である第一次産業において、明るい兆しもみえています。

さて、現在、愛南町は、「人口減少社会における持続発展可能なまちづく

り」という重い課題に直面しています。

人口減少社会においては、税収の低下などから、これまでの公共サービスの維持が難しくなる中、最小の経費で最大の効果を得る施策を選択していく必要があります。そのためには、町民の皆さまの意見をいかに施策に反映させていくか、その過程を大切にすることがあります。愛南町議会では、そのような視点から、大切な議論を公開し、丁寧で開かれた議会運営に努めてまいりました。昨年の6月定例議会からは、一般質問の質問回数に制限を設けない「一問一答方式」を導入し、論点を明確にした議論となるよう努め、「議会報告会」の開催方法についても、団体等を対象とした「意見交換会」として分野別に広聴の機会を設けるなど、議会改革を推進してまいりました。懸案であった「議会広報」についても、現在、「議会だより発行準備特別委員会」を設置して協議を進めており、住民の皆さまと課題を共有し、共に考える紙面となるよう議論を続けています。今後とも町民の皆さまの負託に応えられるよう、さらなる議会改革に取り組み、地域産業の活性化、町

民の生活の質の向上を目指して、住民の皆さまと共に互いに知恵を出し合って取り組んでいく所存であります。

辰年は、「活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年」だと言われています。合併20周年を迎えるこの記念すべき年に、愛南町の経済がさらに成長し、幸せを実感できる町となるよう、議会も議事機関として「住民と共に考え歩む議会」を目指してまいります。

本年も、議会に対し、町民の皆さまのさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、町民の皆さまにとりまして、本年が素晴らしい、幸多き一年となりますよう祈念して、新年のあいさつとさせていただきます。



ふみひと 愛南町議会議長 佐々木 史仁